

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



有料入館者11万人達成

～ 8月の入館者4千人を記録～

年間1万7千人を優に超すお客様をお迎えする金山博物館ですが、この8月13日、“有料入館者11万人”を達成しました。

この8月だけで4千人のお客様をお迎えすることが出来、すでに9月30日現在を見ると11万5千人を超えています。

これは開館以来の努力で知名度が上昇し、博物館活動が浸透してきたことなどが大きな理由の一つと考えられます。中でも砂金採り体験室は旅行雑誌などでも大きく紹介され、レジャースポットとしてもリピート率が高まっています。今年の5月に設置した「砂金採り番付表」（ホームページへも掲載）では多くの方々の挑戦が見られます。

この勢いと活動を更に活性化させ、これまで以上に地域の誇りとなる博物館活動を目指していきます。

膨らむ「世界遺産」の夢

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷 口 一 夫

世の中のことって、すべて「思うことが実現」しています。最初から何も「思ってなければ」何も起きません。地域の活性化を「思って」その目標に向かって「行動」すれば、下部町の活性化は、より実現に近づきます。

全国へ通じる「しもべの観光スポット」

私たちの下部町は、観光立町を目指しています。それには町内にある歴史、文化、自然遺産を使いこなすことです。その「しもべの観光スポット」はたくさんあります。

その中心はやはり1200年余の歴史をもつ「下部温泉郷」です。日蓮聖人が身延山を開山したおよそ750年前には、すでに「下部の湯治場」として、知れ渡っていた下部の財産です。現在、JR身延線も「下部温泉駅」で、全国へ周知されています。

加えて、湯之奥金山で知られる「国指定史跡」である16世紀（戦国～江戸期）の山金山遺跡（金鉱石から産出した日本における初源的金山）があります。そのガイドンス館が本館です。

さらに、江戸期には、全国を行脚した「微笑仏」で知られる「木喰上人」の誕生の地「丸畑」と、そこには「微笑館」と「木喰記念館」などがあります。自然遺産では、本栖湖があり、5000円札の写真に使われている撮影スポットがあります。

すべて全国に通じる「しもべの観光スポット」です。

「世界遺産登録」は観光スポットを一体化

これらの「観光スポット」を一体化して、力強く世に出すことが、即、下部の活性化につながります。その強力な手段の一つとして、湯之奥金山遺跡の「世界遺産登録」運動です。

「世界遺産登録」が実現すると

もしも、本当に登録に至った場合を、想像し

たことがありますか？。観光地として、一段と整備され、下部温泉郷の賑わいと、観光スポットへの人の流れが連日見られるでしょう。雇用の創出にもつながり、若者の定着も望めます。

夢実現へ2,717人が署名

こんな、夢を実現したいということから、湯之奥金山遺跡を「世界遺産」登録しようという活動を、金山博物館友の会会員を中心に民間レベルでしています。

博物館エントランスに備え付けの署名簿には連日記帳され、9月23日現在2,717人に達しました。来館者の20%くらいの方々が署名しています。山梨県内の皆様は、その三分の一の804人、他はスウェーデンや台湾からの外国人を含め日本全国から応援を頂いています。

内訳を見てみたいと思います（市町村名や都道府県名は最初の記帳者順です）。

・山梨県（単位は人）

八代町	10	玉穂町	16
下部町	189	塩山市	72
南アルプス市	39	大和村	1
身延町	17	市川大門町	33
中富町	16	敷島町	8
増穂町	9	御坂町	9
石和町	16	一宮町	7
西桂町	1	高根町	4
甲府市	137	韮崎市	14
田富町	19	豊富村	4
河口湖町	7	中道町	3
富士吉田市	6	大泉村	11
大月市	15	南部町	6
六郷町	17	道志村	4
竜王町	17	山梨市	8
上野原町	3	双葉町	4
昭和町	14	鰍沢町	15
三珠町	9	忍野村	1

勝沼町	2	白州町	2
春日居町	32	都留市	1
長坂町	6		
		(合計)	804人

• 県外

静岡県	414	群馬県	28
神奈川県	574	北海道	20
兵庫県	13	鹿児島県	3
長野県	69	茨城県	12
東京都	372	富山県	1
山口県	1	広島県	3
石川県	15	スウェーデン	1
島根県	3	福岡県	4
奈良県	6	台湾	4
愛知県	40	福島県	1
大阪府	20	岐阜県	6
千葉県	120	新潟県	7
埼玉県	106	青森県	2
栃木県	10	岡山県	1
京都府	14	徳島県	2
滋賀県	4	山形県	2
熊本県	2	岩手県	1
三重県	6	福井県	4
不明	22		
		(合計)	1,913人

「黄金の国」の産金史を集大成

涌谷での産金で「奈良東大寺の大仏」の鍍金が施され、鹿折金山など岩手の諸金山の産金は平泉の黄金文化を支え、また、マルコポーロによって「黄金の国ジパング」が西洋に伝えられました。

甲斐金山における戦国時代の山金の開始は、戦国時代武将の大きな財源となるとともに、南蛮貿易を発展させる源となったといえます。

特に甲斐国における産金遺跡は多く、それを背景に四進法の「甲州金」による日本で最初の「貨幣制度」が確立されました。この制度は、やがて江戸時代、幕府の貨幣制度へと発展していきます。

また、佐渡金山は、幕府直営の巨大な金山として開発され、そこでの産金活動は幕府の財源に貢献しました。このほか、新潟県では山形県境にまたがる朝日岳に見られる鳴海、大沢金山など越後黄金山の産金活動が注目されます。こうした未調査の金山遺跡は、早期に総合調査が期待されるところです。

これらを、集大成して「東国の金山遺跡と黄金文化」としての取り組みを提案したいと思っています。今のところ民間レベルですが、各地の関係者と水面下でこの呼びかけを私たちは始めています。

これらの署名は、純粹に「夢を共有」して下された皆様方です。私たちは、こんなにも多くの皆様が、呼応してくれたことに意を強くしています。署名はまだまだ続くでしょう。

夢実現をより確実にするために(提案)

私たちは今、より「世界遺産登録」を確実にするために、次の作戦を考えています。

世界遺産登録の枠組みを拡大

現在、世界遺産登録運動は、「湯之奥金山遺跡」(国史跡/甲斐金山黒川金山・中山金山遺跡)のほか、「佐渡金山遺跡」(国史跡)や岩手県平泉の中尊寺境内(国特別史跡)などが行っています。我が国の「産金」の歴史は、8世紀(749年)に宮城県涌谷で始まり、そこは「黄金山産金遺跡」(国史跡)として、それぞれが国指定史跡になっています。

計り知れない「経済効果」

次頁の地図は日本の産金地です。東日本に数が多いことが分かるでしょう。西国の石見銀山は、すでに「世界遺産暫定登録」となり、本登録のための手続きを進めていますが、これに対し「東国の金山遺跡と黄金文化」は、我が国の産金史を広域的に再現しながら「世界遺産登録」を果たすことで、貴重な文化財、文化、歴史を守りながら地域活性化の源づくりになります。

これらが果たす「経済効果」は、下部を始めとする峡南地域はもとより、山梨県や日本に及びます。

皆んなで考え、登録へ向け行動する。これが実現の早道です。下部町の活性化に直結するものです。当然のこと①~⑤の産金地(次頁)は、同様に世界遺産のメリットを共有することができます。

東国の金山遺跡と黄金文化

① 奈良時代の最初の産金遺跡

国指定史跡（指定／昭和42年12月15日）

黄金山産金遺跡（宮城県涌谷）

② 陸奥金山遺跡と平泉文化

鹿折金山関連資料（板碑57基）

中尊寺・毛越寺（柳の御所）／特別史跡・特別名勝

③ 初源期の山金山遺跡

国指定史跡（指定／平成9年9月2日）

甲斐金山遺跡（黒川・中山金山遺跡）

（湯之奥金山）

⑤ 江戸期の幕府の金山

国指定史跡（指定／平成6年5月24日）

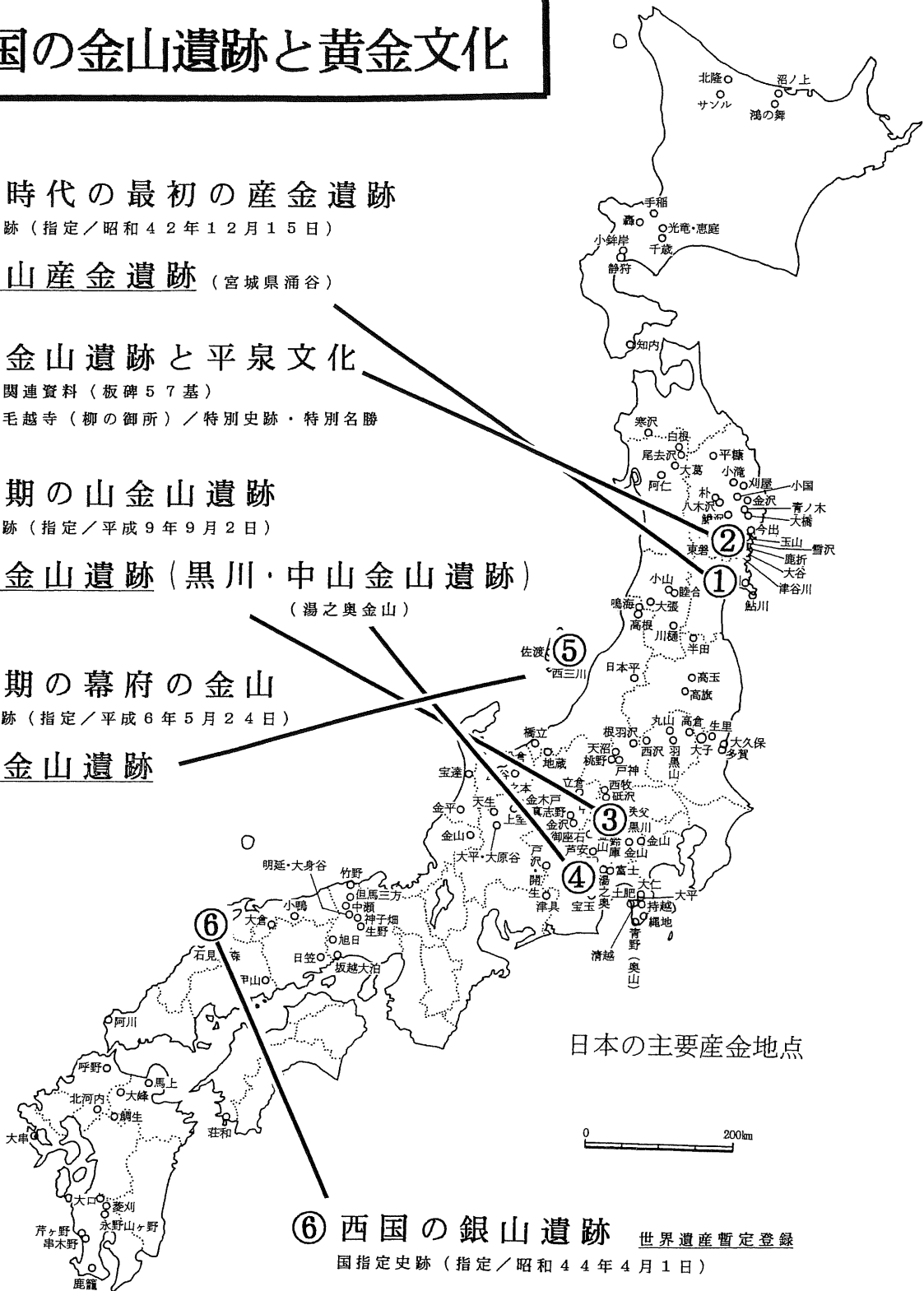
佐渡金山遺跡

⑥ 西国の銀山遺跡

世界遺産暫定登録

国指定史跡（指定／昭和44年4月1日）

石見銀山遺跡



活 動 報 告

インターンシップ研修（峡南高校生）7月28日(月)～8月2日(土)

近年特にいわれる就職状況の厳しさなどから、公共施設や企業で勤労体験し、実習を通じて就業意識を養い、職業適正を考えたりコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした職業体験実習・インターンシップ実施が増加傾向にあります。

地元・峡南高校でも3年前から、夏休みにインターンシップ研修を実施してきており、町内外の電気機械器具製造会社や建設会社など約30社に、2、3年生の希望者が派遣されています。それに伴い、当館も研修先のひとつとして選定されており、今年も4人の研修生がやってきました。

今年全員男子生徒。初めての接客業務ということで、受付、売店のレジ打ち、砂金採り体験指導と覚えることも多く、初日は緊張していたようですが、翌日からは大分緊張も解け、積極的に館内業務に従事し、またこの時期はイベント準備があったため暑い中プール清掃をしたり、会場作りをしたりとなかなか大忙しでした。研修最終日はちょうど「砂金掘り大会」が重なり、タイムキーパーや写真撮影、その他雑務に対してもよく動いてくれました。

実習期間は5日間という短い期間でしたが、



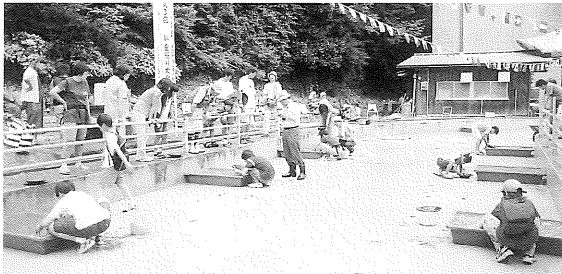
砂金掘り大会当日は、タイムキーパーをしたり、選手として出場したり、大忙し

業務を覚えようと前向きな姿勢がとても好感が持てましたし、来館して下さった皆さんからの評価も上々でした。

この5日間の研修を終えて「大変だったけど意外に面白かった」というのが研修生達の共通の感想だったようですが、ここでの経験が、彼らのこれからは少しでも役立ってくれればと願わずにはられません。「ありがとうございました。また遊びに来ます。」と元気よく館を後にしていきました。

第3回 砂金掘り大会

8月2日(土)



「湯之奥金山博物館杯・第3回砂金掘り大会」が今年も開催されました。毎年多くの皆様にご参加いただいておりますが、この企画も早くも今年で第3回目。今回は、過去2回の参加者から集まった意見を参考に、ジュニア部門（小学生から中学生）、男女初心者部門（高校生以上）、男女ベテラン部門（年齢制限なし）と種別も3部門に絞るなどの変更点を加えての開催となり

ました。

まず最初は最も参加者の多いジュニア部門から始めました。家族で参加という人たちが多く「ほら、そこにあるよ」「もう少し」などという親子同士の声援が多く飛び交いました。

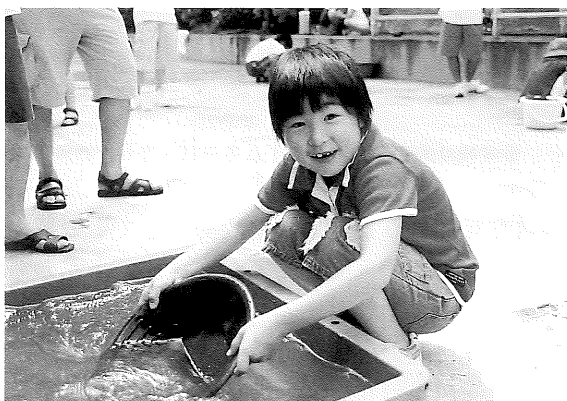
約40人のジュニアの競技の後は、高校生以上からの男女初心者部門、続いて男女ベテラン部門という順で競技しましたが、いずれの試合も皆真剣な表情で取り組んでいました。今年では全部門の中で最も成績の良かった人が総合優勝だったため、皆この一発勝負に気合も入ったようです。ベテラン部門では競技時間2分というパフォーマンスで、その場が大いに盛り上がる一幕もありました。

ボランティア、そして参加者の皆さんの協力

でお昼過ぎに競技のすべてを終了し、表彰式となりました。各部門ともに谷口館長から入賞第3位までには表彰状とメダルが手渡され、いよいよ総合優勝者の発表となりました。

今年の総合優勝は滝沢美保さん（南アルプス市）。滝沢さんには表彰状、メダルのほかにトロフィーと副賞が手渡されましたが、結果は表彰式まで公表されませんでしたので、成績発表で名前を呼ばれた時にはとても驚いた様子でした。ちなみに滝沢さんは、娘の真由子ちゃん（ジュニア部門3位）と親子での入賞でした。

この日はヤマメ祭りと同日開催でお天気も良く、午前中は大会に参加して、午後はヤマメの



つかみ取りなどのイベントを楽しむという子も多かったようです。

今回の大会には県内はもちろん、遠くからは兵庫、灘高校・中学校から地学研究部の活動の一環として引率の先生以下生徒12人が参加した他、群馬、東京、神奈川と県内外ともに飛び入りも含め約90人の参加者により大いに盛り上がりました。

後日談ですが、灘高校地学研究部顧問・野村敏郎先生（友の会会員）から、「2学期始業式の報告会で、生徒が砂金掘り大会第4位になったことを報告したところ、歓声上がり、大変誉められました。」という連絡をいただきました。

今回はタイムキーパーの役目や途中の水の汲み替えやフネに溜まった砂出しなどを、博物館友の会の協力をいただき、手早く対処することができました。次回はさらに内容の濃い大会にしたいと考えています。

来年の夏も開催いたしますので、皆さん入賞を狙って是非日々鍛錬してみてください。今大会結果は次のようになりました。

（砂金採り大会 写真撮影 峡南高校3年 土屋正晴）

ジュニア部門 順位表		(砂金数 13個 ※全部門共通)	
1	岩松 芽衣	12個	9:43
2	木内 香奈	12個	13:16
3	滝沢 真由子	12個	13:50
4	田代 祐介	12個	13:51
5	山口 さき	12個	15:07
6	関谷 知宏	11個	24:19
7	望月 たいが	10個	27:01
8	山本 直輝	10個	28:42
9	平江 アツシ	10個	29:59
10	保坂 吉皇	9個	28:17
11	安達 圭佑	9個	33:41
12	奥水 康二	9個	34:44
13	中込 乃々香	9個	33:43
14	宮川 りほ	8個	35:43
15	神庭 未佳子	7個	44:32
16	赤池 徹晃	6個	42:40
17	笠井 香那	6個	46:53
18	若杉 ひろき	6個	49:10
19	大森 太吉	5個	49:59
20	中島 なおひろ	5個	52:14
21	駒井 まこ	5個	52:23
22	田岡 暁	4個	48:58
23	中島 タクヤ	4個	55:58
24	駒井 かこ	4個	57:04
25	深沢 優人	4個	58:28
26	新開 優梨	4個	58:33
27	桐戸 千佳	3個	62:22
28	望月 豊	3個	62:39
29	望月 のどか	2個	57:42
30	宮川 たかひろ	2個	69:57
31	大林 まさかず	0個	77:25
32	宮川 よしひろ	13個	UP
33	原口 かつあき	12個	UP
34	望月 裕希	11個	UP
35	桐戸 顕寛	11個	UP
36	望月 佑介	9個	UP
37	岡田 しずほ	7個	UP
38	笠井 美那	6個	UP
39	田辺 怜	5個	UP
40	中込 蒼一郎	4個	UP
41	村松 嶺	4個	UP
42	伊藤 タクヤ	3個	UP
43	大森 麻天	3個	UP
44	深沢 瑞穂	3個	UP
45	藤原 もとあき	2個	UP
46	伊藤 翔	2個	UP
47	亀井 りょう	2個	UP
男女ベテラン部門 順位表			
1	広瀬 義明	12個	12:13
2	石部 直樹	11個	19:03
3	加賀美 勇人	11個	21:55
4	高岡 伸五	8個	30:07
5	曾谷 英機	8個	35:19
6	板村 英明	7個	33:16
7	福井 玲	7個	35:27
8	赤池 一博	6個	40:04
9	野村 敏郎	0個	2:23 (67:23)
10	前田 庄司	0個	4:53 (69:53)

男女初心者部門 順位表			
1	滝沢 美保	13個	6:65
2	原口 静香	13個	12:03
3	一ノ瀬 仁	12個	11:35
4	中川 清	12個	13:15
5	中込 なお子	12個	14:41
6	中島 ただし	12個	17:40
7	新開 綾子	12個	18:53
8	土屋 正晴	11個	17:00
9	宮川 ともお	11個	18:23
10	藤原 春梅	11個	22:14
11	望月 孝	10個	26:17
12	原口 英樹	10個	27:39
13	李 在弘	10個	28:19
14	樋川 信二	9個	28:19
15	新開 晴彦	9個	34:27
16	大森 真澄	9個	34:38
17	大森 亨	8個	38:59
18	森永 将裕	7個	36:50
19	山土井 良太	7個	37:13
20	一之瀬 けいこ	7個	38:13
21	池田 淳一	7個	39:18
22	中込 よしとも	7個	40:07
23	矢野 厚	7個	42:25
24	中島 たか子	6個	46:21
25	相馬 浩	4個	58:16
26	島田 ひろゆき	3個	52:34
27	三善 悠矢	2個	61:36
28	刈谷 和夫	11個	UP
29	深沢 その美	3個	UP
30	井上 徳久	0個	UP



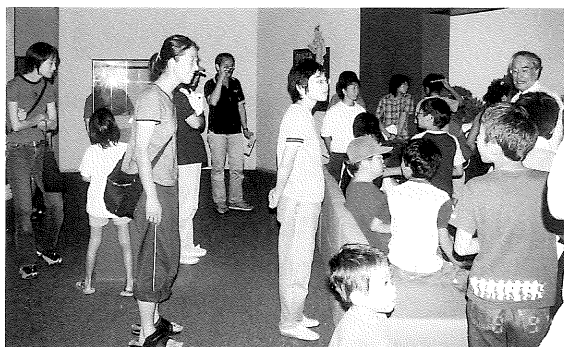
総合優勝の滝沢さん（南アルプス市）

第3回 こども金山探検隊

8月9日(土)～10日(日)

夏休み恒例の「こども金山探検隊」ですが、砂金掘り大会同様、こちらの企画も早くも第3回目。実際に湯之奥金山遺跡に自分の足で赴き、金山衆の技術を楽しみながら学んでみようという体験プログラムですが、小学館の「自由研究探検大図鑑 (P28～29)」で紹介され、人気は上々、ちょっとしたハプニングがありました。参加隊員32人での開催となりました。

イベントがあるたびに心配する天候ですが、天気予報でも数日前から報じられていた大型台風10号の影響を今回ばかりはどうやら免れそうにありませんでした。そこで参加者の皆さんには雨天プログラム(金山への登山を中止)か、すべてを中止か、事前に連絡しましたが、参加者の熱意に押され、雨天プログラムで開催することにしました。しかしなんとと言っても台風ですから、博物館まで来ることさえ困難な状況でした。遠方から見える参加者も随分多く、決して無理はしないようにということで迎えた当日。やはり台風直撃。集合時間も遅らせて対応。それでも時間になると、「おはようございます」「すごい雨ですね」と、むしろ、こちらが驚くくらいほとんどの参加者がやってきました。



館長の説明で館内見学する隊員たち

このように初日から一波瀾でしたが、いよいよ開始。午前中はオリエンテーション後、昨年の現地見学会の様子ビデオ上映や、午後の粉成作業のために砂金採り体験室において砂金採りの練習などをしました。午後は、子供たちに人気の粉成作業でしたが、屋外にある臼を使っての粉成体験に代わり、ハンマーで大奮闘。みごとに金鉱石を粉にしました。引き続いて汰り分けの作業ですが体験室の砂金とは比べ物にならないくらい小さい粒子の自然金を取り出すこ



いよいよ粉成作業開始

の作業にもなかなか悪戦苦闘。「うわ、ちっちゃい」「これ金？」と、疑問や感想を口にしながらも、やってみる作業のすべてが初めての隊員達にとっては楽しいようで、率先して意欲的に作業を進めている姿が印象的でした。

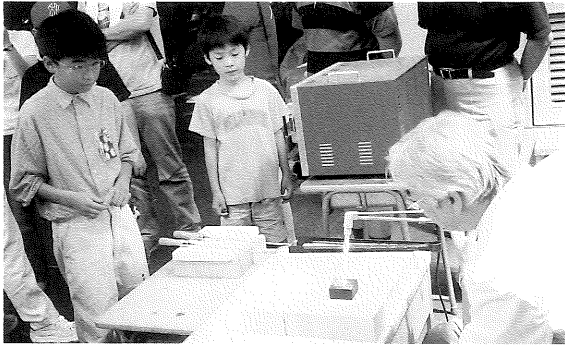


みんなで
汰り分け(上)
意外に難しい



参加隊員最年少。
金はあるかな(右)

このように参加者の皆さんの協力を得て1日目のプログラムを無事終了。夕方頃になると雨もやみ、朝のうちは中止かどうか懸念していたバーベキュー大会も楽しく開催でき、1日目を終えることが出来ました。



金が丸くなっていく様子に興味津々…

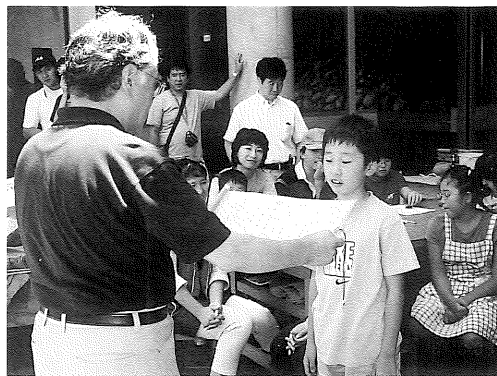
2日目、台風一過、朝からいい天気です。昨日の雨が嘘のようです。1日目に台風で参加できなかった隊員も2日目は定刻どおり全員が集まり、灰吹・甲州金作りが始まりました。危険な金を溶かす作業は、博物館友の会の高岡伸五会長が当たりました。

隊員たちは「るつぼ」に灰をつめ、固め、採れた金と鉛を乗せるなど、それぞれ作業が進むと、いよいよガスバーナーにかけます。すると金が丸くなっていく瞬間の様子に「おお～」「すごい光ってる」という歓声をあげる隊員達。出来上がった金粒を丁寧に磨いて輝きを出し、さらに刻印を打つ子、粒状のままでケースに入れる子、それぞれでしたが、今回はさらに体験室で自分の採った砂金を混ぜて大きな粒金にするという隊員もいました。中には、これまでコツコツと溜めていた砂金を全部混ぜて特大の粒

金を作った隊員もいて、皆から羨望の眼差しで注目されていました。

作業は滞りなく予定通り進み修了式です。32人の隊員には谷口館長から、小松学芸員手づくりの和紙の「巻もの修了証書」が手渡され、自分で作った「甲州金」にも大満足。

書いていただいたアンケートで、こうしたらもっと良かったという意見のほかに最も多かったのは、遺跡を見たかった、次は是非山に登りたいという意見でした。今回の天候ばかりは本当に残念でしたが、これらの意見はまた来年の参考にさせていただき、イベント内容をより充実させるようにしていきます。今年も参加者の皆さんの協力で、無事に終了することが出来ましたが、この台風という悪天候にもへこたれずに参加してくれた隊員達、そして保護者の皆さん、お疲れ様でした。



ひとりひとりに館長から修了証が手渡されました

有料入館者 11万人目は水村さん御一家(埼玉県) 8月13日(水)

お盆休みで賑わう13日の午前中、当館は開館以来有料入館者11万人目をお迎えすることが出来ました。

この幸運に当たったのは埼玉県から来館してくれた水村一義さん御一家。受付でチケットを購入した後11万人目の入館者になったことを告げられ、初めは何のことか分からず大変驚かれた様子でしたが、谷口館長から花束と記念品が手渡されると、そのことを実感されたようでした。水村さん一家はこの日から3日間の行楽予定で博物館へは、偶然立ち寄ったということで、「本当にびっくりしました」と感想を述べてくれました。谷口館長の案内で博物館内を観覧した後、砂金採り体験をされましたが、「せっかく来たから」と2回目も楽しんでいってくれま

した。水村さん御一家には追って金箔記念入館証をお送りさせていただきましたが、後日「ありがとうございました」という御礼の手紙を頂戴いたしました。

次回の12万人目達成のニュースを早く紹介できるように、職員皆、これまでと変わらぬサービスと笑顔でお客様をお迎えしていく心積りで



砂金採りを楽しむ水村さん御一家

私の研究ノート⑬

資料紹介

高岡伸五 (湯之奥金山博物館友の会会長)

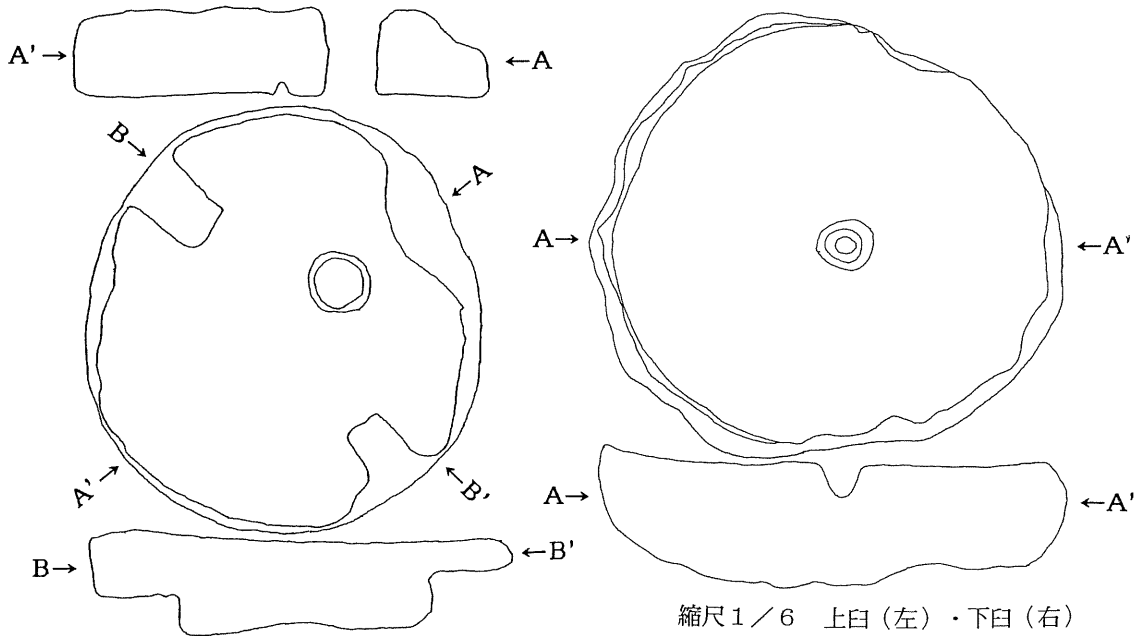
湯之奥型・ひき臼「上臼・下臼」

ここに紹介する湯之奥型ひき臼は、山梨県下部温泉郷の老舗である(株)湯元ホテル(下部町下部35)所蔵のものである。平成14年4月1日に同社から湯之奥金山博物館に寄託され、現在、博物館エントランスで展示公開されている。

同社に保管されるに至った経緯については、およそ50年前、同社の先代経営者である中込松伯氏の時代に湯之奥「内山金山」遺跡から、木材搬出時に下ろされたものを保管・管理されたものとみられている。

ひき臼の法量並びに観察記録は右記のとおり。特に湯之奥型ひき臼の上臼・下臼がセットになった資料は僅少で貴重である。

観察表		整理番号 No.0001	
出土遺跡 湯之奥・内山金山(推定)		残存率	98%
形式	湯之奥型	供給口	直径 5cm 深さ 9cm
上臼	直径 40cm 厚さ 8~10cm 重量 25kg	柄溝数	2 長さ 8~9cm
軸受孔	直径 2cm	柄穴数	無 幅 5cm 深さ 4cm
深さ	2cm	下臼	直径 42cm 厚さ 12cm 重量 41kg
ものくぼり	1本 幅 4cm	実測・トレス	高岡伸五
片減り	あり		
色・石質	灰色/擬灰岩		



親子映画観賞会

夏休み最後の休館日の24日、午後1時から親子映画観賞会を開催いたしました。夏休みでお知らせが町内放送だけだったにも関わらず、50人近くのお友達が集まってくれました。上映作品はリクエストの最も多かった「クレヨンしんちゃん」ほかでしたが、みんな楽しんでくれたようです。

次回の日程は次のとおりですので、参加希望の方は博物館までお申し込みください。

第18回 親子映画観賞会 平成15年10月25日(土) 午後6時～ ※観賞無料

上映作品「リロアンドスティッチ」

館からのお知らせ

平成15年度 公開講座日程

甲斐金山と鉱床学

～ 山金・砂金・芝金を見極めた金山衆の世界～

金山史研究の中では中国大陸・朝鮮半島から産金の技術導入があったとされるなど、それは想像や、推測の部分が多く、それらの信憑性や歴史事実を解明するための資料はほとんどありません。

8世紀頃からの砂金・芝金、16世紀頃からの山金採掘を行ってきた人々（金山衆・金掘り）の鉱床に対する知識を考える上で、当時の理解水準が、現在の地質学鉱床学で得られている最新の学術情報にどれだけ重なり合うのか。これを検証することによって、金山衆・金掘りの鉱床に対する理解度（レベル）を考察し、この講座を通じて一步でも金山衆・金掘りの世界に近づきたいと考えます。

回数	日時	演題	講師
31回	平成15年 10月18日(土)	「山金鉱床（鉱石と金鉱石）」の一考察	D・O・C コンサルタント 原田 明
32回	11月15日(土)	「日本の地質学・鉱床学」	九州大学 名誉教授 井澤 英二
33回	12月13日(土)	「長尾（甲武信）金山雑考」	雲南・チベット民俗学会 会員 由井 格
34回	平成16年 1月17日(土)	「金鶏金山の歴史と地質鉱床」	三井金属鉱業総合研究所資源研究室 室長 五味 篤
35回	2月14日(土)	「富士山と甲府盆地」	県環境科学研究所自然環境研究部 部長 輿水 達司

主催 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館・下部町教育委員会

会場 湯之奥金山博物館多目的ホール（JR 身延線下部温泉駅下車・徒歩3分）

時間 午後2時～午後4時

受講料 無料

その他 気象条件や講師の都合により日程が変更される場合がありますのでその都度、博物館へお問い合わせのうえ、御来館ください。

運営委員交代

この度、博物館運営委員会委員の交代がありました。下部町議会における役職交代により、前議長高野敏彦氏から新議長石部典生氏に交代

がありました。

高野氏には、長い間運営委員会委員としてご活躍いただきました。ありがとうございました。

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく言ったものです。秋分の日を過ぎた辺りからすっかり肌寒くなり、今ではほんの少し前までTシャツ一枚で過ごしていたことが嘘のよう。季節の移り変わりを感じます。

さて、今年は陽気が例年と違ったせいもあり、周囲の山の色づきも様子が多少違いますが、それでも見頃を迎えようとしています。「山に登るなんて疲れる」と思うかも知れませんが、この季節の山登りは夏の疲れから気分をリフレッシュさせるのにもなかなか効果的です。お天気の良い日を選んで試してみたいかたがでしょう。

博物館だより

第26号
平成15年10月10日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
TEL 0556 (36) 0015
FAX 0556 (36) 0003

博物館ホームページアドレス <http://www.2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/>

博物館Eメールアドレス kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp